

アクティブ福祉

第35号
2018.12

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 広報誌

特集

「介護ロボット等における普及状況に関する
実態アンケート」からみえてきたこと
介護ロボットへの不安と期待
そしてお金の事情

連載

東京における介護事業所経営の
課題とは 第3回

東京ケアリーダーズが行く！
うわさの施設 その2

専門委員会リレートーク！
2回目

TOPICS

Join us!

第13回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京'18」開催報告

- 支援業務の多様化の中で
- 地域共生とご入居者の自立支援
- 新潟県内支援センターとの交流研修を開催しました！
- 「東京ケアリーダーズ」活動紹介 No.3
- 私の心に残るエピソード
- 第5回 福祉職場の“リア充”さん！

Facebook
更新中!



社会福祉法人 青梅白寿会

特別養護老人ホーム シルバーコート丹三郎 施設長 くわた じゅんいち 桑田 淳一（施設管理検討委員会 委員）

介護施設における介護ロボットの導入状況については期待や注目もある一方、不安や課題もあり導入を検討している事業所も多いようです。そのような中で、施設管理検討委員会が実態把握のためのアンケート調査を実施しました。その結果について、担当の桑田委員にご報告いただきます。

【介護ロボット等における普及状況に関する実態アンケート】

調査対象：東京都高齢者福祉施設協議会 会員の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム

調査期間：平成 30 年 7 月 2 日～7 月 25 日

回答数：329 施設（内訳：特養 275、養護 21、軽費 25、施設種別未回答 8）＊回収率 59.17%

「介護ロボットや ICT への関心が高まる一方、導入事例は比例して増えているとは言えないのでは？」との疑問を出発点に、施設管理検討委員会のワーキングチームとして活動を進めてきました。まずは実態調査を行い、「現場でどれだけの機種が使われていて、どんな課題や成果があるのか」など現在の動向を把握することで、今後の施設運営のお役に立てばと考えています。

興味はあるが、導入施設は少ない

アンケートを総括すると「8割の施設が介護ロボットに興味をもっているが、センサーを除く多くの製品について導入している施設は少ない」と言うことができます。興味や関心があると同時に、費用に対する効果、効果の不確実性に不安があり導入に至らないケースが多くあるように見受けられました。施設経営が逼迫する中での導入となると、当然、安易な支出はできません。導入したあとの確実な効果を求める経営層とロボットへの理解がなかなか進まない介護現場が要因のように感じられました。（問Ⅱ－1）（問Ⅱ－2）

導入機器の種別ごとに評価・期待の差

導入機器の種類別で見ると、「見守りセンサーロボット等」が一番多く、3割程度の施設で導入していました。コメント数も80件以上と関心の高さが伺え、転倒リスクの軽減や職員の負担軽減について高い評価がありました。

その他は、導入しているとした割合がそれぞれ1割前後と大差ないのですが、種別ごとの反響はそれぞれに個性ある結果となりました。「排せつ支援ロボット等」については導入例が極端に少ないにも関わらず、その有効性に期待できることが伺えました。また「移乗支援ロボット等」についても導入例は少数でしたが満足度は高く、効果や成果をみることができました。反対に「コミュニケーションロボット等」や「介護支援ロボット等」についてはコストが高くメンテナンスや装着の手間などの課題が多い印象でした。（問Ⅱ－3・5・7・9・11・13）

導入しない、導入出来ない、ホンネ。

介護ロボットの導入事例が少なかったことは前述のとおりですが、導入を阻む最も大きな理由はやはりコストであると考えられます。「価格が高い割に使い勝手が悪く、効果の確実性が低い」という見解が大半の結果となりました。

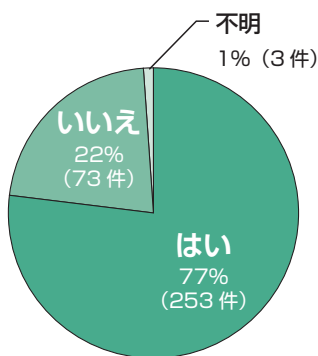
具体的な価格について、ここでは触れませんが、長期的にデモ機を使用することで解決される面もあると考えます。また職員の負担軽減や、短期間で効果が明らかになれば多少高価であっても導入は進むと考えられ、この点は今後期待されるところではないかと考えます。(問Ⅱ-15)

東京都高齢者福祉施設協議会（高齢協）に期待したい！

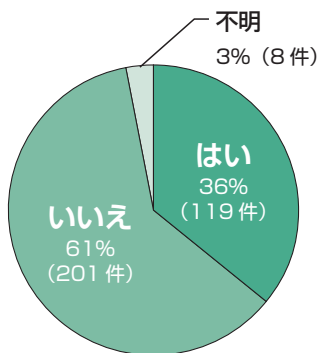
このような状況の中、高齢協に対しては、より多くの情報提供を望む声が寄せられました。展示会の周知や商品紹介の場を提供することなどがその声に応えていくことにつながると考えられます。

回答した事業所の8割近くの関心ごとを、高齢協がどのようにクローズアップするかが期待されており、導入事例の発表会やそれを研究事例として取り上げていく（発信していく）ことも、高齢協の重要な役割であると思われます。また、4割弱の事業所が費用面に不安を抱えており、円滑な導入を進めるためにも、東京都へ補助の支援を要望していくことも必要であると考えます。

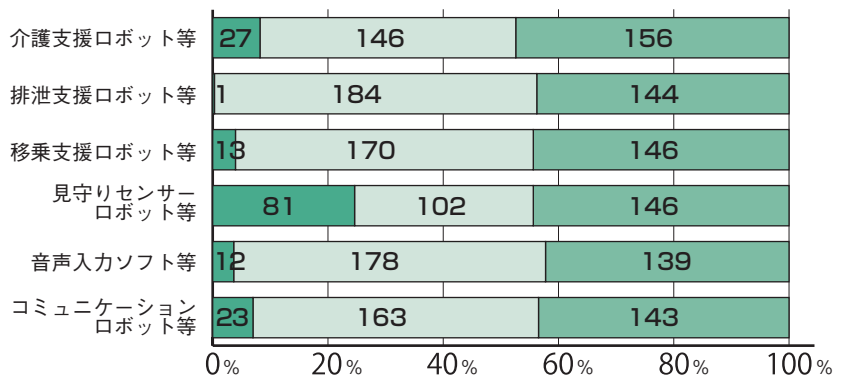
問Ⅱ-1 現在、介護ロボット等について事業所全体として興味をもちますか



問Ⅱ-2 現在、介護ロボット等を導入していますか

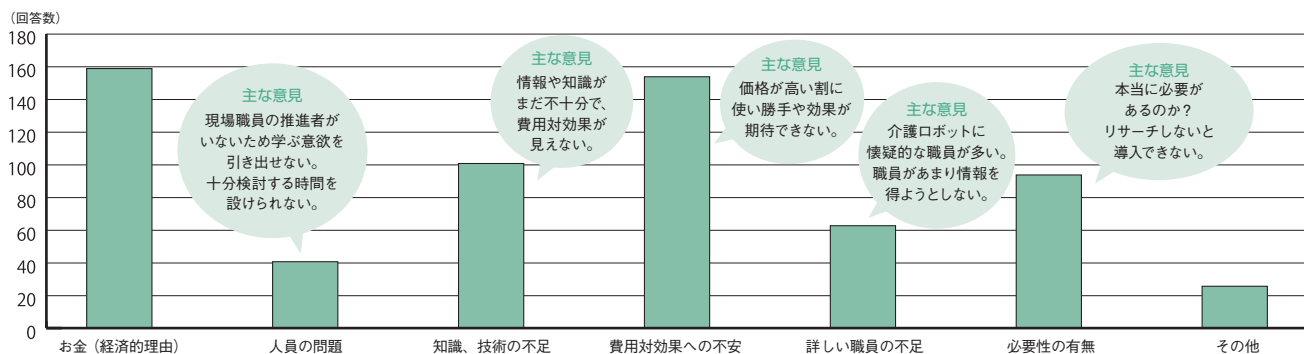


問Ⅱ-3・5・7・9・11・13 導入状況



種類	「導入している」割合	評価点 (期待する点)	課題点
介護支援ロボット等	27件 (8.21%)	・装着者の腰部の負担軽減	・体格と商品サイズの不適合 ・装着の手間や技術の習得 (リモコン操作等) ・費用面
排泄支援ロボット等	1件 (0.30%)	・(右記課題点が改良された場合) 適切な排泄援助や従事者の負担軽減	・作動音が認知症の方に適しにくい ・センサー等の装着とその状態の維持が困難
移乗支援ロボット等	13件 (3.95%)	・活用場面が具体的に、満足度が比較的高い ・現実的な活用が期待される	
見守りセンサーロボット等	81件 (24.62%)	・事故防止、転倒予防、転倒リスクの軽減 ・職員の身体的、心理的負担の軽減、夜勤帯における介護職員の心理的負担軽減 ・見守りへの成果 ・設定に汎用性がある	・(利用者により) センサーが感知しない (感知しにくい) ことがある ・電波状況によって動作が安定しない ・価格が高い ・wifi環境の整備が必要
ソフト等音声入力	12件 (3.65%)	・継続使用により機器の学習向上が期待される	・音声認識 (変換) の精度に不備がある (これにより実用性が乏しい)
コミュニケーションロボット等	23件 (6.99%)		・利用者の発語や発声により、機器の聞き取りや聞き分け能力が異なる ・対象者の認知能力により機器の有益性に幅がある ・機能設定や機器本体の衛生管理等、メンテナンス

問Ⅱ-15 介護ロボットを導入しない (できない) 理由 *複数回答



新任施設長の皆さまに向けて、全4回の連載でお届けするコーナーです。
東京都高齢者福祉施設協議会 経営検討委員会で毎年実施している「経営実態調査」にご協力をいただいている福祉規格総合研究所の栗原英彰氏に寄稿いただきます。

第3回

1. 社会福祉充実残額マイナスインパクト

社会福祉充実残額（以下、「残額」という。）は、法人全体で算定し、その結果残額が生じている状態であれば、社会福祉充実計画（以下、「計画」という。）を作成し、評議員会の承認などを経て所轄庁に計画を申請し、その後計画に基づく事業実施という流れとなっている。一方、残額がマイナスの場合は、その後の計画などの作成を行う必要がないため、ホッとしている役職員の方々も多いのではないだろうか。しかし、残額のマイナスの大きさが、法人の身の丈との関係でどの程度なのか、を知らなくて本当に良いのだろうか。さらに、事業継続の可能性判断ということになれば、法人全体の残額では、判断が付かないため、事業単位毎（拠点区分毎）に残額を算定しておく必要がある。

今回は、都内民設民営特別養護老人ホーム拠点区分の平均社会福祉充実残額の算定を、平成28年度経営実態調査より行い、△97,719千円であったと推計した。

この金額は、同調査の年間事業活動支出計（いわゆる運転資金）の2.833ヶ月分に相当するマイナスである。拠点区分の残額は、①拠点区分のマネジメント責任者（マネジメントの範囲や理事長（委託者）と施設長（受託者）との間における委託・受託の範囲についての共通認識が不明確であることが多い）評価の結果とも言えるのではないだろうか。上記のような状態であれば、将来の建替えや大規模修繕への備えが出来ていない、ということになる。

②拠点区分のマネジメント責任者の評価結果に話を戻すが、当該責任者は異動もあり、例えば今年新たに当該責任者となった方は、前任者の結果責任を問われても、という思いになるだろう。また当該責任者のコントロール外で、他の拠点区分への繰入れや繰替使用があった場合などはそれらを除外して評価を行わなければならないであろう。上記金額は、このような様々な事態が存在していると思われる中でのもの、としてご理解いただきたい。社会福祉充実残額の計算の始点はいわゆる「内部留保」と言われている以下の算式で求められる金額である。

内部留保＝純資産の合計－基本金－国庫補助金等特別積立金

上記の算式からわかるように、内部留保は純資産の内訳であり、かつ差額概念であるため、これが個別的な財産の裏付けを持つ訳ではない。そのため、社会福祉充実残額がプラスであるかマイナスであるかに関わらず、現金預金等の残高とは連動しないことになる。

2. 事業継続性を確保する運転資金等

以下に、平成28年度経営実態調査における平均貸借対照表、平均事業活動計算書及び設備資金借入金の状況から資金の状況を推計してみることにする。

(1) 運転資金の状況

現金預金(積立資産を除く)(178,631千円) - 短期運営資金借入金(1,047千円) - 長期運営資金借入金(2,608千円) = 174,976千円 \geq 103,447千円(年間事業活動支出計の3/12)
 $174,976千円 / 103,447千円 \times 3ヶ月 = 5.07ヶ月$
 約5ヶ月分相当の運転資金があることがわかる。

(2) 減価償却自己金融

次に減価償却の自己金融機能の成果を見てみる。減価償却自己金融とは、減価償却費は現金支出を伴わない費用であるため、仮に利益がゼロであっても、減価償却費相当分の資金は留保されるだろうということである。社会福祉法人会計基準では、減価償却費に対応して国庫補助金等特別積立金取崩額(現金収入を伴わない)を計上するため、減価償却自己金融は、減価償却累計額(829,597千円) - 国庫補助金等特別積立金取崩累計額(598,601千円) = 230,996千円とした。左記の金額から設備資金借入金元金償還累計支出(221,125千円)を差し引くと、9,871千円となり、この金額が本来の減価償却自己金融となる。

(3) 事業継続性を確保する運転資金等

上記(1)の現金預金178,631千円に上記(2)の減価償却自己金融9,871千円が含まれている場合には、運転資金から減価償却自己金融を差し引いた168,760千円が、実際の運転資金に充当可能な金額であることに留意する必要がある。

すでに、当該減価償却自己金融部分を積立資産として留保している場合は、上記の事は考慮する必要はない。

3. 今後の目標設定等について

まずは、左記1で示した残額(△97,719千円)を基礎として将来的に必要となる建替え等に必要な金額をどのように準備するのか、ということを検討していくことになる。年度毎の当期活動増減差額(当期利益)の赤字が続けば、内部留保が増加しないため残額のマイナスを解消することは難しくなる。そのため毎年度一定の当期利益を確保し続けて行かなければ、将来の建替え等は出来なくなるかもしれない、という事態に直面する可能性が高いことになる。そのような事態にならないようにするため、特別養護老人ホームにおいては、利用率と平均要介護度が重要なポイントに挙げられる。同調査では、利用率95.1%、平均要介護度3.93という結果が出ている。利用率95.1%は、一見するとそれほど悪くない値だが、100%との差は4.9%あり、0.1%でも利用率を上げる手段は、今までのやり方にひと工夫しないと達成出来なくなっているのではないか。例えば退所されてから次の利用者が入所されるまでの期間をどの程度要しているのか把握しているか。待機者リストの更新はどの程度の間隔で行われているのか、などひと工夫することで、目標を達成することできるかも知れないので、確認してみることをおすすめする。

東京都高齢者福祉施設協議会ホームページに「やってみようシート」が掲載されている。当該シートでは建物の維持更新費用を見込んで、積み立てるべき金額を算定し、現預金から運転資金を差し引いた残高が、積み立てるべき金額に足りているか否かを見るものになっているので、こちらも活用すると良いであろう。

東京 高齢協議会

検索

「東京 高齢協議会」で検索!
 * 広報誌・タブロイド判のページをご覧ください

東京ケアリーダーズが行く！うわさの施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約 1200 施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験をもつ施設を紹介するコーナー。毎回、「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが訪問し、直接お話を伺います。

その 2

2018 年開催 第13回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京 '18」ケアの質向上部門 最優秀賞
 社会福祉法人 至誠学舎東京 吉祥寺ナーシングホーム

施設内の連携により研究を推進

「利用者・職員の負担軽減を目的とした移乗介助の見直し
 ～移乗ボード導入によるノーリフトケアに向けた取り組みと職員の意識改革～」



左から齋木、菊地さん、速水さん、
 大久保実施施設長

日頃から意見を言いあえる協力体制を活かして、施設一体となって研究を行い、「アクティブ福祉 in 東京 '18」で最優秀賞を獲得した吉祥寺ナーシングホーム。今回は発表者の菊地 果凛さん、速水 亮一さんのお二人に研究についてお話を伺いました。

研究の流れ

課題 ベッドから車いすの移乗ではボードを導入していたが、入浴時には導入しておらず、利用者・職員の負担となっており、改善のため移乗ボードの導入に取り組む必要性があった。

準備 職員間で入浴時の抱える移乗およびボードを使用した移乗を体験。利用時の恐怖感の軽減と職員の負担軽減につながる事が判明。

取組 対象者を選定、各サイズの移乗ボードをレンタルして試行。感想シートを作成・共有し、使いやすさや安全性、効果や課題の把握を行う。

結果 利用者・職員の負担軽減につながり、安全な入浴介助につながった。

移乗ボードとは…車いすからベッドなどへ移動する際に使う補助板。プラスチック製など表面が滑らかで、自立移動が難しい方を抱えずに移動させる際に使用できる。

— 研究のきっかけを教えてください。

菊地 体の大きい利用者の入浴時の移乗介助には力が必要で、職員が腰を痛める不安がありました。

速水 滑って利用者が転落する危険性もあり、移乗ボード（以下、ボード）を使用するのフォローが必要と感じていました。

— 一步のミスでも大きな事故につながってしまうので、リスクの軽減は重要だと思います。研究にはどれくらいかかりましたか？

菊地 発表の一年前から漠然と考えてはいましたが、テーマを決めるまでに時間もかかりました（笑）。テーマ決定からの研究期間は 8 か月ぐらいです。

速水 ボード導入案は以前からありましたが、入浴時はボードに防水機能が必要なことや利用者は服を脱いでいるため、擦り傷など皮膚へのダメージが心配でした。それを解決し導入を推進するため、研究として本格的に実施する形となりました。

— ボードの導入において、職員間でどのように連携しましたか。

菊地 機能訓練指導員からアドバイスをもらいました。普段からお互



職員による移乗体験

い意見や相談をしあえるよい関係ができていたので、今回もスムーズに進められました。導入にあたって、職員同士での移乗体験を実施しました。そのとき、空中に浮く恐怖感や、持ち上げるとき・降ろすときに想像以上に衝撃があることに初めて気づき、それを軽減することが大きなテーマになりました。ボードを何種類か試し、最終的には少し短いボードに決定しました。



入浴時の移乗ボード使用の様子

— 短いボードだと傾斜が急になってしまいませんか？

速水 車いすの種類にもよりますが、試してみた結果、短いボードの方が車いすとストレッチャーの段差は小さくなりました。このあたりは課題として今後も研究の必要があります。

菊地 研究を通じてボードを導入した結果、「抱えるよりも負担が軽減した」、「安心して移乗が行えるようになった」という声があがったことは大きな効果だと思います。

— 研究を行った感想をお聞かせください。

菊地 職員間で連携して取り組み、研究の中で周囲の協力を得られたことはとてもありがたい経験でした。だからこそ、今回の受賞をとてもうれしく思います。初めての研究を手探りで進める中、途中でボード導入の対象の方を変更するといった想定外の事態もあり、結果が見えず、不安も感じました。ですが、研究を成し遂げ発表した後は達成感と開放感があり、これまで考え悩んだことが報われたと感じます。

— 思いもよらない状況もあって、発表を作り上げるまで本当に大変ですね。

速水 研究では周囲から多く意見をもらえました。ボードを実際に使った職員からは利用者それぞれの使用感のフィードバックをもらい、研究がはかどりました。また、上司の理解と協力にも助けられました。将来性を見据え環境を整備し、現状の手法に常に疑問を持ち改善につなげることで、安心・安全な介護の実現を職員全体で意識することが大切だと感じました。

— 将来、研究される方々に、アドバイスをお願いします。

速水 研究は行うことに意味があります。これによって利用者の満足度や施設の環境が改善されれば、それは受賞よりも意義があることだと思います。

菊地 一人で進めていくことは難しいです。ほかの職員との協力が何よりも大切です。

— 最後に、施設の特徴や心がけていることを教えてください。

菊地 普段から人間関係がよく、困ったときに相談しやすい職場です。上司も日頃気にかけてくれて、働きやすいと感じています。利用者の方には自分の家族のように、気持ちを込めて誠意をもって接することを心がけています。

— お話を伺って、普段から職員間で意見を出し合える関係が受賞につながっていると感じました。研究を行うことは施設の介護の改善と同時に、とても良い経験となり自信につながるのかと思います。受賞、本当におめでとうございます。本日はありがとうございました。



社会福祉法人 至誠学舎東京 吉祥寺ナーシングホーム

所在地：武蔵野市吉祥寺北町 2-9-2 TEL：0422-20-0800 FAX：0422-20-0897

■取材 東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ
齋木 まどか（社会福祉法人 白十字会 白十字ホーム 介護職員）

■記録・編集 東京新聞 木下聡文

Join us!



新しいケア、集結！

第13回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京 '18」開催報告

去る9月28日に標記大会を開催し、1,000名を超える方々にご来場いただきました。ここでは、当日の様子をご報告いたします。ご参加いただいた皆さま、発表者の皆さま、審査員の先生方、ご出展企業の皆さま、運営係員にご協力いただいた皆さまに、心よりお礼申し上げます。

次回大会（アクティブ福祉 in 東京 19）は、2019年9月30日（月）の開催を予定しております。

*開催が近づきましたら改めてご案内いたします。



パワーポイントによる口演発表！ ソーシャルワーク・医療・人材育成・リハビリ・リスクマネジメントなど多様な研究・実践の発表がありました。

ポスターセッションコーナーでは、発表者と来場者の間でたくさんのお話がありました。



ロボット体験エリアや機器展示コーナーでは、直接触って、質問して、体験して…色々な商品を目にすることができました。



喫茶コーナーやポスター掲示コーナーもこの賑わい！



当日審査の結果、以下の方々が表彰されました。



最優秀賞

高齢者在宅サービスセンター シャローム南沢居宅介護支援事業所

「居宅ケアマネのアンケートから見る在宅生活の困難化の分岐点についての考察と居宅ケアマネのできること」

吉祥寺ナーシングホーム

「利用者・職員の負担軽減を目的とした移乗介助の見直し」

博水の郷

「特養が主体的に企画し開催する就職フェアの意義とその成果について」

うきま幸苑

「オーラルフレイルに着目した自力摂取利用者の食事支援」

ユアハウス弥生

「利用者のニーズを引き出し、実現するための取り組み」

至誠キートンホームヘルプステーション

「ヘルパーの負担を特性別に分類し、実務を通じて負担軽減に取り組んだ成果について」

優秀賞

ナイスケア世田谷介護センター

「居宅ケアマネジャーが行う、8050問題への取り組みと対応について」

やすらぎミラージュ

「移乗ボードを導入しご利用者と職員の身体的、精神的負担軽減に繋がった研究」

紫磨園

「離職率 42.5% から 2.5%へ「4年間の軌跡」

ウエルガーデン伊興園

「胃ろう栄養から経口摂取への支援専門職種として経口移行加算を取得するために」

愛全園

「歩行能力維持向上に対するリハビリマシン導入とその結果」

大田区立特別養護老人ホーム桜谷

「権利擁護向上委員会の活動（取り組み）報告」

日本介護福祉士養成施設協会会長賞

南陽園

「緊急ショートステイを受け入れ続けることで見えてきた在宅生活の課題」

台東区立特別養護老人ホーム三ノ輪

「利用者が希望する排泄方法の実現に向けて指針に基づき取り組んだ結果、QOLが向上した事例」

砧ホーム

「特別養護老人ホームにおける介護専門職を中心とした組織づくりとその効果について」

第三南陽園

「多職種と連携して行うリスクマネジメントに関する取り組み」

新時代の高齢者福祉デザイン賞

聖母ホーム

「ボランティアを続けたいくなるマネジメントの取り組みと社会参加の支援」

奨励賞

日本福祉教育専門学校

「外国人介護者の問題点と対策の考え」

東京福祉保育専門学校

「実習事後学習及び事例検討会の活用により実践力の向上及び就職に向けての情報共有」



受賞者の皆さま

東京ケアリーダーズ

Tokyo Care Leaders

活動紹介
No.3

私達、こんな活動してきました!

みなさんこんにちは！東京ケアリーダーズです。

2018年9月28日に行なわれた「アクティブ福祉 in 東京 '18」に出演してきました。その様子をご報告します。

私たち東京ケアリーダーズは、2016年の「アクティブ福祉 in 東京 '16」でデビューしました。ということで、「アクティブ福祉」には今回で3度目の出演となります。

今回は、研究発表がおこなわれている各会場の係員、介護の専門学校等で学ぶ学生さんたちとの交流、ステージイベントにご登壇されたお笑い芸人「レギュラー」さんとのトークセッション等、盛りだくさんの内容でした。

最後に、来場してくださって全ての方々へ感謝の気持ちを込めて、ハイタッチでお見送りさせていただき、笑顔で終わることが出来ました。

たくさんの方の研究発表に触れ、改めて、介護の仕事の深さや面白さを感じました。

現場で働いている私たち、東京ケアリーダーズだからこそ、伝えられる魅力をもっと発信していきたいと思います。



各会場で司会などを担当しました



ユニフォームコーナーではご質問もたくさんいただきました。



「レギュラー」さんと壇上でトーク！ 総合司会の町亞聖さんも一緒に会場を盛り上げてくれました。



閉会時には参加者のみなさんをハイタッチでお見送り



東京ケアリーダーズ facebook

はるびの郷 徳山あかね
シャローム東久留米 岩崎 克己
白十字ホーム 齋木まどか
ひのでホーム 中村 綾里



専門委員会リレートーク!

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会（※）に所属する皆さまから、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えたい情報を伝えるページです。今回は、施設管理検討委員会の高橋委員長（新町光陽苑／足立区）からのご報告です。

3つのワーキングチーム活動で 地域に貢献する福祉人材を育てる

社会福祉法人泉陽会 新町光陽苑 施設長 高橋 三行
施設管理検討委員会 委員長

私たち施設管理検討委員会では、高齢協で2017年に策定した「アクティブ福祉ランドデザイン」における「私たちは、地域に貢献する福祉人材を育てます」という宣言に基本づき、3つのワーキングチーム（以下、WT）を設け活動を行っています。今回はその内容をご紹介します。



施設管理検討委員会の3つの活動

① ワーク・エンバイロメント（作業環境）に関わるWT

魅力ある職場環境を構築するための研修会を企画し、「人が集まり、元気に働く、施設の工夫とキャリアパス研修会」を2018年11月28日に実施しました。

② ICT・介護ロボット等活用に関するWT

ICT（information and communications technology：情報通信技術）や介護ロボットを活用し介護職の負担軽減等について、効果的な活用方法を検討しています。今号の特集記事（p2 - 3）に掲載の「介護ロボット等における普及状況に関する実態アンケート」もこのWTで行っています。

③ 新任施設管理者の育成に関わるWT

「新任施設管理者のためのハンドブック WEB版・改訂版」を発行し、高齢協のホームページに掲載しています。2018年9月18日には、「施設長としての悩み事や困り事について語り合う」研修会を開催しました。

来年度は、施設管理者等を対象とした異業種から学ぶ研修会を企画及び開催したいと話しています。

参加を募集しています！

2019年度は、2年に1度の委員改正が行われます。上記の活動に興味を持っていただけただけの方、ぜひ委員として一緒に頑張りませんか？

委員会は年6回程度（平日午後）に開催。上記3つのWTでの話し合いに加えて、情報交換を行っています。温かな雰囲気のできるので、どうぞお気軽にご参加ください。見学も随時受け付けています。

東京の高齢者福祉の“いま”と“これから”、そして、働きやすい職場環境を一緒に考えましょう！

※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。

支援業務の多様化の中で

●社会福祉法人友愛十字会
友愛ホーム 副主任支援員

おがさわら まこと
小笠原 慎

▶利用者の重度化のなかで ～ 役割・共助の意識と参加◀

養護老人ホームで介護保険サービスが利用できるようになってから12年が経ちました。当園では当初5～6名程の方だけが利用していましたが、現在では利用者の半数以上の36名程の方が介護保険サービスを利用しています。

要介護3以上の方もおられ、介護サービスの必要な利用者が増加し、日々、排泄、通院付添い、服薬等の支援が増加しています。自立している利用者からは「昔のホームとは違ってきたわね？」と言う声を耳にすることもあります。

このように、利用者が重度化する中で、適時適切に支援することが大事になってきています。

▶マンツーマンサービス◀

当園では、一人で外出できない利用者への支援として、希望する方に年1回、公共交通機関、施設車輛を利用して個別の外出支援を行っています。施設職員が付き添って、お墓参りや、昔の勤務先、暮らしていた思い出の場所等へ出かけています。



巣鴨の行きつけのお茶屋へ



ずっと行きたいと思っていたお墓参りへ

当園で自立した生活を送っていただくために、利用者の皆さんには「我が家の気持ち」を持って、自分たちでできる役割（行事の手伝い、清掃等）と共助の意識を持って頂くとともに、地域の活動に参加いただくことも必要だと思っています。

社会福祉法人 友愛十字会 友愛ホーム

所在地：東京都世田谷区砧3丁目9番11号 TEL：03-3416-3164 FAX：03-3416-5782

地域共生とご入居者の自立支援

●社会福祉法人博愛会
ケアハウス ハーモニー松葉

施設長 ^{やま だ たける} 山田 建
生活相談員 ^{か れ が わ たけし} 加連川 剛

▶ 施設入居者ではなく「地域住民として」◀

当施設のある東京都稲城市矢野口周辺は住宅や学校、福祉施設が密集しており、近隣には昔ながらの商店街があります。そのため、住民同士の距離が近く、地縁による関わりが深い地区ですが、当施設のご入居者は、買い物で商店街を利用する、老人会の催しに参加する、ボランティア活動に取り組むなど、地域に溶け込む形で生活しています。



地域交流イベントでのハーモニー松葉歌の祭典

▶ 3法人共同の「子ども食堂」◀

同地域は稲城市のコミュニティーソーシャルワークモデル地区で、当法人を含む近隣3つの社会福祉法人が共同で「子ども食堂」を開催しています。子ども食堂は全国的に広がっている活動ですが、3法人が共同で取り組むという形は地域性を活かした繋がりであるといえます。もちろん、その手伝いにはご入居者も参加して、子供達の遊び相手や食事マナーを教えていただくなど世代間交流を図っています。現在は子供のみが対象ですが、ゆくゆくは地域の高齢者や障がい者の方々にもご参加いただきたいと考えています。



子ども食堂で子どもたちと交流するご入居者



ボランティアで子ども食堂に関わるご入居者の様子

▶ 当施設の「自立支援とは」◀

当施設はご入居者の自主性を尊重した施設運営を行っており、施設内に行事、住環境、園芸、節電の係を設け、ご入居者がその役割を担います。メンバー間で協議・検討を重ね、ご入居者が決めたことが施設運営に反映されます。

「自立」にはそれ相応の責任が伴いますが、施設生活においてもご入居者に役割や責任を担ってもらい、自らの意思で生活を創ることが一番の自立支援であると考えています。

今後のご入居者が主体の施設運営を行ない、職員と協働しながら地域貢献の取組みを進めることで、ご入居者の自立支援、さらには地域住民に必要とされる施設となるよう努めていきたいと思ひます。



ご入居者（行事係）と職員の打ち合わせ風景

社会福祉法人 博愛会 ハーモニー松葉

所在地：東京都稲城市矢野口 1806 番 TEL：042-370-8160 FAX：042-370-8161



新潟県内支援センターとの交流研修を開催しました!

●東社協 東京都高齢者福祉施設協議会
センター分科会 支援センター分会

▶ 研修テーマは「身寄りのない方の支援について」 ◀

支援センターの職員として、身寄りのない方（特に、支援や介護が必要な方で、まだ成年後見制度に結びついていない方）の支援に困難を感じる方は多いのではないのでしょうか。

今回の研修会では、テーマに沿った基調講演として弁護士の中澤泰二郎氏（新潟県弁護士会 高齢者・障害者の権利に関する委員会 副委員長）よりご講演いただき、新潟県、東京都からそれぞれ1件の事例発表を行い、グループワークで情報交換を行いました。

10月19日 (1日目)	研修会「身寄りのない方の支援について」 (1) 基調講演 弁護士 中澤泰二郎氏（中澤泰二郎法律事務所） (2) 事例発表 ① 「キーパーソンがいない場合の支援について」 東京都：たいとう地域包括支援センター 向坂修也氏 ② 「身寄りなし問題～弧族の人たち～」 新潟県：新潟市地域包括支援センター 須貝秀昭氏 (3) 情報交換
10月20日 (2日目)	施設見学 Willassist（ウィルアシスト）常設福祉用具展示場 説明・案内：株式会社青芳 専務取締役 秋元幸平氏



1日目：基調講演の様子



2日目：福用具展示場での様子

▶ 研修会参加者の声 ◀

【1日目】

- ・中澤さんのパフォーマンスとお話を聞き、弁護士さんがより身近に感じられ、相談しやすい環境が出来ていると思いました。
- ・仕事が趣味と言い切る須貝さんのお話も現状にある課題をきちんと理解し、自分が動きどうにかしていかなければいけないとの働きかけが素晴らしいと感動しました。
- ・今回のテーマについての課題は東京・新潟にとどまらず全国的な課題であり、どうアプローチするかといった技術的な視点だけではなく、対応できる資源（制度や法律等）の創出に向けたアクションが我々に

求められている、そう、強く実感した研修でした。

- ・地域性ももちろんあると思うが、人の熱い思いが地域を変えていくと実感した研修でした。

【2日目】

- ・スプーンや箸など自助具開発の工夫に驚きました。
- ・スプーンの進入角度やヘッド部の深さや大きさ、グリップの太さなど普段は全く気にしたことがありませんでした。
- ・1つ1つにこだわり、使う人のことを考え妥協しない姿勢を見習いたいです。

ボランティアを行う心構えから学んだこと

● Mさんとの出会い

入職してほどなく、機能訓練指導員業務の一環として「ボランティア担当」の業務を担うことになりました。当初は、個別の訓練と慣れないボランティア対応に戸惑いがありました。

そんな時に、要介護5のMさんの訓練を担当する事になりました。ボランティア経験のあるMさんは、訓練の合間によく、活動当時の様子を聞かせてくださいました。「シルバーパスが使える歳になれば、活動の幅が広がると思っていたのに、いざその歳になると身体が動かないのよ」と言いながら、苦労話などを教えてくださったことを覚えています。

● 大切な言葉

Mさんのお話の中で「ボランティアは‘無冠の帝王’として自分の心の中だけで誇る、縁の下の力持ちで良い。『させて貰っている』『任されている』と思って活動するのよ」と言う言葉がありました。自分自身が仕事に追われ、疎かにしていた事に気付かされた一言でした。

それからは、『させて貰っている』『任されている』と意識して仕事に向かう様に努めるようになり、上手くいかない事にイライラする事が少なくなって、「ありがとう」と言う事が自然と増えるようになりました。

● ボランティアの方々と共に

当園には、1,000人を超えるボランティアの方々がお越しくださっています。(2017年実績)

今は施設の介護支援専門員を任されるようにもなり、Mさんの言葉を意識しつつ、大勢のボランティアの方々と共に、これからも地域に開かれた施設であり続けられる様にサービスに取り組んでいきたいと思っています。



編集後記

気がつけば忙しい師走……お疲れの日々を過ごされていると思います。

この時季は、冬にかぼちゃをいただき、ゆず湯に入るとい風習にあやかり、のんびり時間を過ごしたいものです。

とは言え、高齢者福祉を取り巻く厳しい環境のなかで、高齢者へのより良い生活支援に向けて、現場職員は時に葛藤しながらも温かいマインドで取り組んでいます。

今後も福祉・介護の仕事のマスコミ報道はマイナスイメージが多いと思われませんが、当広報誌（アクティブ福祉）を編集する広報戦略推進委員会では、やりがい最前線にいる現場職員の活躍をアピールしてまいります。また、特集や連載、専門委員会リポートなど、皆さまが知りたい旬な情報も提供しています。是非、手に取りご利用いただければと思います。

社会福祉法人アゼリヤ会
常務理事・統括施設長

稲垣 瑞恵

アクティブ福祉

第5回 福祉職場の

リア充さん!



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会
マスコットキャラクター「アクティブブル」

こんにちは！東京都高齢者福祉施設協議会のアクティブだブル。このコーナーでは仕事やプライベートを楽しみながら福祉職場で働く「リア充」さんを紹介していくブル！

今回のリア充さん



はやし ひかる
林 輝さん

社会福祉法人大和会
特別養護老人ホーム愛生苑
介護職員

アクティブブル：このお仕事を選んだ理由を教えてください！

林さん：大学2年生の時に社会福祉士実習で現在の職場にお世話になった際、このままここを去るのは惜しいと感じて…。実習後に非常勤の介護職員として1年半勤め、今年4月に常勤職員となりました。

アクティブブル：仕事への思い、聞かせてほしいブル！

林さん：利用者様と僕だけの特別な話題を持つ事が出来た時は、やりがいを感じます。少しずつ手探りで支援していく中で信頼関係を得る事が出来たと思える瞬間がとても好きです。大変だと思つ時もありますが、日々頑張っています。

アクティブブル：休日はどうしているブル？

林さん：写真を撮るのが好きで、休みの日は外出し' SNS 映え' するものを日々探しています。最近 GoPro と一眼レフを買いました。社会人って感じがします(笑)

アクティブブル：プライベートも充実しているブルね。最後に、この仕事のPRをどうぞ！

林さん：会話で人を幸せに出来る良い仕事だと思います！お喋り好きな方は、まずはボランティアで現場の空気感を味わってみてください。



敬老会で美空ひばりさんの「お祭りマンボ」を披露！



友人と一緒に大好きなアーティストのライブへ！

社会福祉法人 大和会 特別養護老人ホーム愛生苑

所在地：東京都多摩市和田1547 TEL：042-376-3555 FAX：042-376-3530

当苑は一人ひとりの利用者に関わる全ての方々が幸せを実感できるような施設を目指しています。その実現のためには、働く職員こそが充実したライフスタイルを描かなければならないと考えており、そのための職場環境づくりに全力で取り組んでいます。その上で、個々の職員がそれぞれの個性を如何なく発揮できるよう、先輩、後輩や上司、部下の垣根を超え、柔軟で、風通しのよい人間関係を育みながら、利用者とともに、優しく・温かい生活を創造しています。ぜひ遊びに来てください。

今号の表紙



施設では、たくさんのツールを使ってケアを行っています(p6参照)。「抱えない」と利用者さんも職員も安心・安全！お互いの顔もちゃんと見えて嬉しいね。



ラクタスケア

～介護のプロの声から生まれた、日用品の新しいブランド～

介護現場で働く人々の負担を軽くするお手伝いをするとともに、
介護が必要な方とご家族に寄り添って、前向きで快適な暮らしをサポートします。

介護のお洗濯の
困りごとをスッキリ解決！

- 尿臭
- 生乾き臭
- 食べこぼし

ラクタスケア ニオイのモトから取る洗たく用洗剤

商品特長

- ニオイのモトを溶かす**弱酸性**。
ガンコな尿臭をスッキリ落とす！
- 濡れた衣類から発生しがちなイヤな生乾き臭も防ぐ！
- すぐれた洗浄力で食べこぼし
汚れもしっかり落とす！
- さわやかなせっけんの香り



布製品や空間で気になる介護現場特有の
尿臭・便臭をしっかりと消臭！

ラクタスケア 衣類・布製品の
消臭&除菌・抗菌スプレー

- 消臭
- 99.9%
除菌*
- 抗菌*



介護現場での**お風呂掃除**、
もっとらくらくスピーディーに！

ルック
ラクタスケア
おそうじクイック **浴室用洗剤**

- 泡切れ
超速
- 香料
無配合
- 除菌*

* 全ての菌を取り除く、または抑えるわけではありません。

お問い合わせ先：ライオン株式会社 お客様センター

TEL.0120-556-973 <https://rakutas-care.lion.co.jp>

詳しくはこちら

ラクタスケア

検索